

教育相談

072-941-3365

情報推進

072-943-5785

研究・研修

072-943-5784

八尾市ホームページ <http://www.city.yao.osaka.jp/>
（「教育委員会」のページよりご覧ください）

第62回手をつなぐ子らの会『連合運動会』

日時 令和元年10月17日（木）10:00～13:55
場所 八尾市立総合体育館（ウイング）メインアリーナ

『連合運動会』は、八尾市立小・中学校及び義務教育学校の支援学級の児童・生徒が、体育活動を通して互いに交流し、人間関係を深め楽しい一日を過ごすことを目的に開催しています。

今年は児童・生徒、教員、保護者、そしてボランティアの方々など、合わせて約1200人が集まりました。

開会式では、主催者あいさつ、ボランティア団体あいさつの後、南ブロックと西ブロックの代表児童・生徒が力強く選手宣誓を行いました。



「開会式」



「ポップコーン」



「個人走」



「大玉ころがし」

団体競技1つ目の「追いかけて玉いれ」の後は、「ポップコーン」です。大きなバルーンを、力を合わせて上下させ、ボールを外へ弾き飛ばす競技です。最初はどんどんボールが飛び出していくのですが、残り少なくなってくるとはねてばかりでなかなか出ていかなくなります。全てのボールを弾き飛ばそうと、みんなで協力して頑張りました。カラフルなバルーンが上下し、見た目にも美しくとても楽しい競技でした。

そのあとの「個人走」では、小学生も中学生も力いっぱい走りました。子ども達は走り終えた後お互いに「去年は〇位だったけど今年は〇位だった！」などと話し合っていました。

午後の競技は、「大玉ころがし」からスタートです。中学校の生徒たちとボランティアの方々が、力を合わせて大玉を転がします。2人で懸命に大玉を追いかける姿に応援の声も自然に大きくなり、みんな笑顔になりました。そして最後は「リズム体操」です。みんなでエビカニクスを元気いっぱい踊りました。

閉会式では、北ブロック・東ブロックの代表の児童・生徒が挨拶をしました。その後、参加賞もいただきました。たくさんの来賓の方々、ボランティアの方々、また保護者の方々のご協力とご声援により、元気いっぱい笑顔いっぱいの『連合運動会』となりました。

「算数・数学」授業づくり研修

日 時 令和元年11月12日(火) 15:30~17:00
場 所 八尾市教育センター 大研修室1

「算数・数学」授業づくり研修は、授業力向上研修として奈良学園大学 副学長・教授である金山 憲正 先生をお招きし、算数・数学科における教員の実践的指導力及び資質の向上を図る目的で実施しました。

金山先生には新学習指導要領改訂に伴う授業づくりについて、主に高学年の教材を活用しながら、算数・数学の本質にせまる研修内容を実施していただきました。また、授業における系統性を意識した授業づくりについて、実践例を交えながら指導いただきました。



受講者の感想からも、「系統性の大切さを改めて感じました。」
「子どもたちに考えてほしいという授業を行うには、教材研究がとても大切であると感じました。」
「見通しをもたせる授業づくりや課題解決活動を充実させるための教材研究により一層力をいれたい。」といった内容のものがありました。

小学校6年間の算数科・中学校3年間の数学科の系統性を意識した授業づくりについて学ぶことにより、今年度から八尾市の全中学校区で取り組んでいる小中一貫教育の推進にも通じる、学びの多い研修になりました。

特別支援教育コーディネーター研修

日 時 令和元年10月15日(火) 15:30~17:00
場 所 八尾市教育センター 大研修室1

今回が特別支援教育コーディネーター研修の4回目の実施となりました。講師として、愛着障がいの児童生徒に対する研究の第一人者である、和歌山大学 教育学部 心理学教室 教授 米澤 好史 先生(臨床発達心理士スーパーバイザー・上級教育カウンセラー・学校心理士スーパーバイザー・ガイダンスカウンセラー)をお招きし、「愛着障がい・発達障がいの理解と支援」についてご講義いただきました。

米澤先生には、愛着障がいと発達障がいの児童生徒にかかわる上で、それぞれの児童生徒の心理的・環境的な状況や背景など、基礎的な知識からご教授いただきました。また、愛着形成にかかる具体的な対応の方向性や、発達障がいの児童生徒への対応との違いについてや保護者との連携の仕方についても、ご指導いただきました。

受講者の感想からも、「愛着障がいに対応する際に必要になってくる態度、心構えを知ることができ、大変勉強になりました。」
「子どもと一番かかわるチャンスが多い教職員が対応することで、愛着が形成できるということを心に留め、子どもとかわっていきたいと思いました。」
「まさしく今、愛着形成の必要な子どもと向き合っている状況なので、研修で気づかされることが多かったです。」
「愛着形成に必要な3つの基地を意識して愛着形成、修復が必要だと痛感しました。」
といった内容のものがありました。

学校での子どもへの関わり方について、考える方向性を示していただき、大変有意義な研修となりました。